



パリの歴史

「芸術と文化の都」の2000年

200781225 松本佐知子

1. キリスト教とパリ

- ▶ パリにおける芸術や文化のあり方を考えたとき、歴史的に見ると、キリスト教とその教会や修道院の存在は無視できない
- ▶ 街の広がりや充実に伴って、教会の数が増えた。加えて中世半ばからは修道会や聖堂も増えた。

2.王権のもとで学術文化の都となる中世パリ

- ▶ 教会附属の学校スコラ設置によって、神学思想の研究と教育が重みを増す。
- ▶ 十二世紀パリ、大聖堂附属の学校スコラが設置。十三世紀にはセーヌ川左岸は学生や学者が多く集まる場所となった。
- ▶ 「感嘆すべき哲人」神学者：アベラール

3.職人商人文化の発展と中世末の暗転

- ▶ギルドが形成される時代がはじまった
- ▶エチエンヌ・ボワロー『職業（メチエ）の書』
- ▶中世半ばから高度な質を持った職人や商人たちの組織が機能しだし、市民の生活の質は全体として上がった

4.ルネサンスとパリー王都から王国の首都へ

- ▶ 百年戦争（1337年～1453年）終結後、イタリア発進の「ルネサンス」に関心を示す
- ▶ イタリア・ルネサンスの輝きは、文化的にも経済的にも魅力的であった
- ▶ 都市を美しくする競争は、ルネサンスの本場イタリアでこそ先行していた

4.ルネサンスとパリーー王都から王国の首都へ

- ▶十六世紀 人文主義の学術研究や、芸術文化面でのルネサンス導入
- ▶後半 カルヴァン派を中心とした教会改革派とローマ・カトリックの内戦状態
- ▶1572年「聖バルテルミの虐殺」旧教派の大量虐殺
- ▶十六世紀のパリは市民生活が活発化した時代

5. 17・18世紀のパリの文化的発展と主権

- ▶ 17世紀ヨーロッパ史「危機の時代」
- ▶ 反税一揆などの民衆蜂起
- ▶ フロンドの乱
- ▶ 絶対王政と言われる国内政治体制は、一定の安定を見せた

5. 17・18世紀のパリの文化的発展と主権

- ▶ ヴェルサイユ宮殿の新設と、宮廷社会の形成
- ▶ 絵画、彫刻、音楽、舞踏・バレエ、園遊、祝祭
- ▶ 1630年代ニコラ・ファレ 『オネットム-宮殿で気に入られる作法』
- ▶ ラ・ロシュフコー 『箴言（マクシム）』

5. 17・18世紀のパリの文化的発展と主権

- ▶ 十六世紀 本格的な活版印刷本の刊行
- ▶ 当初 宗教関係の本が圧倒的であったが、十七世紀には書物を刊行して販売する職業と、印刷する職業、製本する職業、それぞれが専門的な団体組織を形成
- ▶ 十八世紀には刊行書籍の内容の多様化
- ▶ フランス語表現の統一

6.文化革命としてのフランス革命

- ▶ 1789年 フランス革命
政治体制の転換 絶対王政→立憲国家へ
- ▶ 1791年「人権宣言」の制定
- ▶ 革命暦の制定……ナポレオンによって廃止
- ▶ 地方自治・統合の仕組み……帝政以降も受け継がれている
- ▶ メートル法やグラム法 度量衡による全国統一

7.ロマン主義以降の芸術文化と新たなパリの中心世

▶ロマン主義とは

ロマン主義は様式的には多様であったが、従来の芸術観における普遍性や規範を重視に対して、個人の個性・経験・感じ方を重視し、創意と想像力の自由な発揮が芸術創造には不可欠だとした。

7.ロマン主義以降の芸術文化と新たなパリの中心世

- ▶ 画家 ドラクロワ
『民衆を導く自由の女神』
1830年 七月革命



『民衆を導く自由の女神』 ドラクロワ

7.ロマン主義以降の芸術文化と新たなパリの中心世

▶女性作家

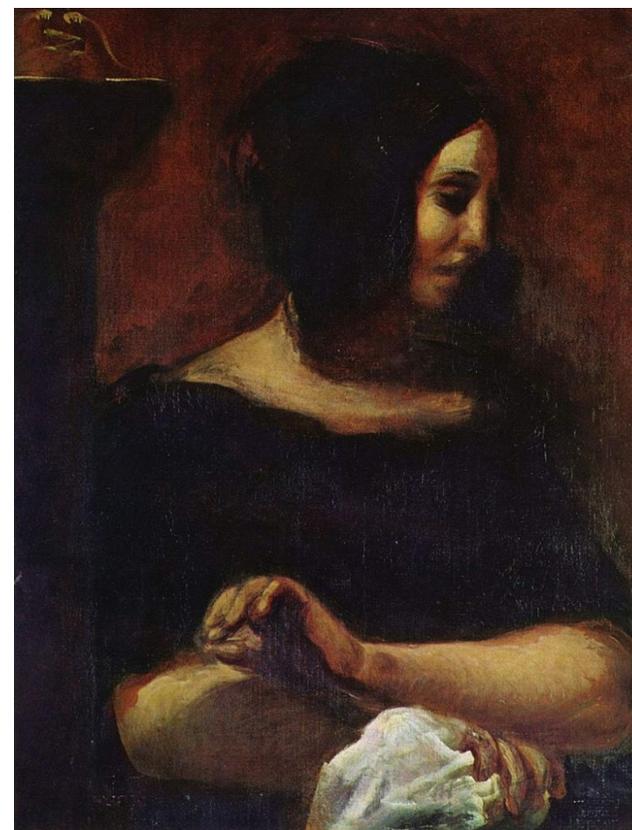
ジョルジュ・サンド

フロラ・トリスタン

▶小説家

オノレ・ド・バルザック

1829年『フクロウ党（シュアンヌ
リー）』



『ジョルジュ・サンドの肖像画』ドラクロワ

7.ロマン主義以降の芸術文化と新たなパリの中心世

- ▶ 十九世紀パリ「読書の首都」
- ▶ 二十世紀パリ「文芸・学芸の共和国」にとって、首都としての位置を占める



『ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏場』オーギュスト・ルノワール

8.パリ大改造序曲

- ▶ 日本人の歴史家 久米邦武の報告書『米欧回覧実記』に、「文明都雅」の先端と映った十九世紀後半のパリ



左：歴史家 久米邦武 右：米欧回覧実記

8.パリ大改造序曲

▶ 現代アーバニズムの生みの親パリ



9. ナポレオン三世と県知事オスマンによる大改造

- ▶ パリ改造に意欲を燃やすナポレオン三世
- ▶ セーヌ県知事 ジュルジュ・オスマン
- ▶ パリ大改造

『周辺市町村併合の政令をオスマン男爵に手渡すナポレオン』イヴォン



10. モードな首都パリ

- ▶ ファッションの世界では4大都市がモードの発信地
(パリ、ミラノ、ニューヨーク、ロンドン)
- ▶ 歴史的な前提の例……
ヴェルサイユ宮殿での一種の服装コード
フランス製レースなどを使用した絢爛豪華な服装コード

10. モードな首都パリ

チャールズ・フレデリック・ワース

▶ イギリス人デザイナー

▶ オートクチュール先駆者

▶ 裕福な女性の顧客が集まる一流のサロンで、本物のマネキンのモデルをスクロール

= 歴史上最初のファッションショー

10. モードな首都パリ



10. モードな首都パリ

二十世紀

▶ ポール・ポワレ

▶ ココ・シャネル

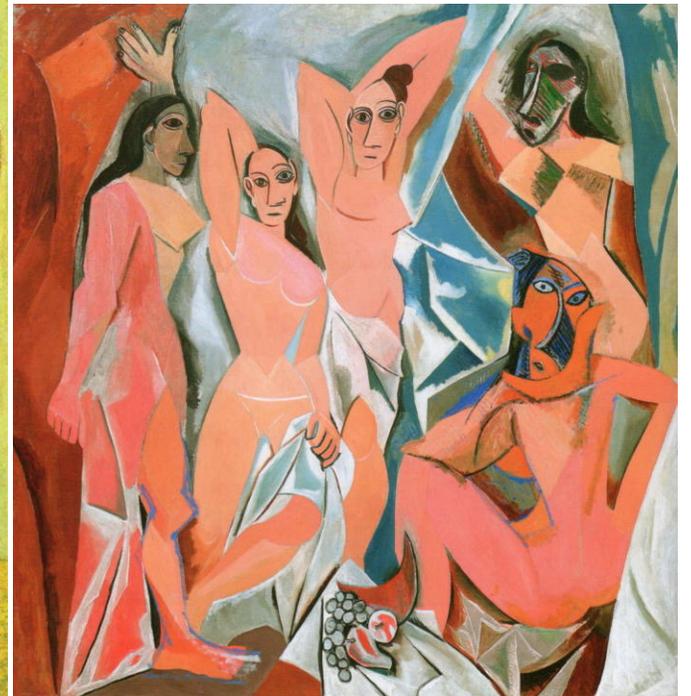
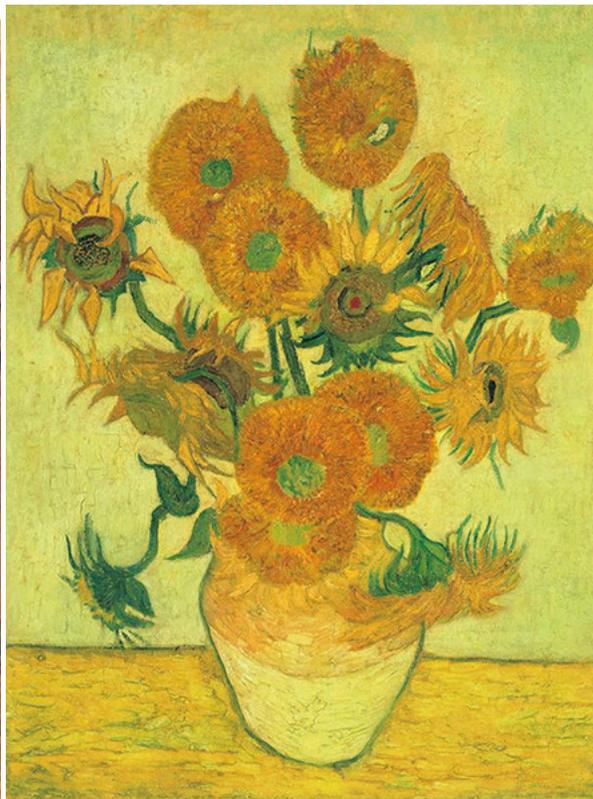
第二次世界大戦後

▶ クリスチャン・
ディオール



(左：ポール・ポワレ 右：ココ・シャネル)

終. 芸術文化を押し上げる力



『ひまわりを描くゴッホ』 ゴーギャン 『ゴッホのひまわり』 ファン・ゴッホ 『アビニヨンの娘たち』 パブロ・ピカソ

終. 芸術文化を押し上げる力



『フォリー・ベルジエールのバー』 マネ



『狂気天才画家』 ファン・ゴッホ